

(様式第 10)

浜医大 医 第 4 号
平成 30 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人浜松医科大学
学長 今野 弘之 (印)

浜松医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号
氏 名	国立大学法人浜松医科大学 学長 今野弘之

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

浜松医科大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号	電話(053) 435 - 2111
----------------------------------	--------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載す

ること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1呼吸器外科 2消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 6心臓血管外科 7内分泌外科 8小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

(1)精神科 (2)小児科 (3)整形外科 (4)脳神経外科 (5)皮膚科 (6)泌尿器科 7産婦人科 (8)産科 (9)婦人科 (10)眼科 (11)耳鼻咽喉科 (12)放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 (15)麻酔科 (16)救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 (3)口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 循環器科 2 神経科 3 心臓血管外科 4 リハビリテーション科 5 形成外科 6 病理診断科 7 小児外科
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
37床	床	床	床	576床	613床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	369人	110人	405.4人	看 護 補 助 者	38人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	10人	3人	10.6人	理 学 療 法 士	19人	臨床検査技師	69人
薬 剤 師	44人	0人	44.0人	作 業 療 法 士	7人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	3人	そ の 他	0人
助 産 師	39人	1人	39.6人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	601人	43人	632.0人	臨 床 工 学 士	19人	医療社会事業従事者	5人
准 看 護 師	2人	4人	4.9人	栄 養 士	0人	その他の技術員	75人
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	123人
管理栄養士	9人	4人	12.0人	診 療 放 射 線 技 師	34人	そ の 他 の 職 員	15人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含まないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	44人	眼 科 専 門 医	8人
外 科 専 門 医	41人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	12人
精 神 科 専 門 医	10人	放 射 線 科 専 門 医	15人
小 児 科 専 門 医	22人	脳 神 経 外 科 専 門 医	7人
皮 膚 科 専 門 医	8人	整 形 外 科 専 門 医	20人
泌 尿 器 科 専 門 医	6人	麻 酔 科 専 門 医	24人
産 婦 人 科 専 門 医	21人	救 急 科 専 門 医	3人
		合 計	242人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (金山尚裕) 任命年月日 平成30年 4月 1日

平成11年より産婦人科長として安全な医療の提供を推進している。
 また、平成16年～20年は副病院長（安全管理担当）として、病院内の医療安全に関して統括的な役割を担った。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	497.10人	5.60人	502.70人
1日当たり平均外来患者数	1238.50人	51.90人	1290.40人
1日当たり平均調剤数	747.10剤		
必要医師数	124.1人		
必要歯科医師数	4.0人		
必要薬剤師数	17人		
必要(准)看護師数	296人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	254.20m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数	12床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 316.5 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	24床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 21 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	413.17m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学・免疫全自動分析装置・全自動血液検査システム			
細菌検査室	174.70m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌同定感受性装置・自動血液培養装置			
病理検査室	149.80m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動固定包埋装置・パラフィン包埋ブロック作成装置・ミクロトーム			
病理解剖室	46.00m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 排水滅菌システム・固定液作成装置・解剖台			
研究室	436.80m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 臨床情報検索データベースシステム			
講義室	255.10m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	1室	収容定員	170人
図書室	61.20m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	6,200冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	99.2%	逆紹介率	57.1%
算出根拠	A: 紹介患者の数		12,941人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,800人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,345人
	D: 初診の患者の数		15,406人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小島 崇宏	大阪A&M法律事務所	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するもの	有・ 無	1
桑原 允嗣	なし		医療を受ける者	有・ 無	2
大磯 義一郎	国立大学法人 浜松医科大学		法律に関する識見を有するもの	有 ・無	1
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法 大学ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	該当なし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	34
2	筋萎縮性側索硬化症	8	57	特発性拡張型心筋症	31
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	10
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	3	60	再生不良性貧血	26
6	パーキンソン病	122	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	3	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	41
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	36	66	IgA腎症	17
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	22
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	28	68	黄色靱帯骨化症	9
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	8	69	後縦靱帯骨化症	82
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	5
16	クドウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	66
17	多系統萎縮症	18	72	下垂体性ADH分泌異常症	8
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	30	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	25
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	15
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	8	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	66
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	138
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	7	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	73
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	47
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	15
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	12
34	神経線維腫症	15	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡	16	90	網膜色素変性症	13
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	13	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	14
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	4
40	高安動脈炎	13	95	自己免疫性肝炎	4
41	巨細胞性動脈炎	4	96	クローン病	134
42	結節性多発動脈炎	11	97	潰瘍性大腸炎	155
43	顕微鏡的多発血管炎	14	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	6	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	6	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	20	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	7	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	162	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	26	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	59	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	20	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	19	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人ステル病	9	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	6
113	筋ジストロフィー	4	163	特発性後天性全身性無汗症	5
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	4
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	4
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	3	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	3
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	2
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	1
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1
222	一次性ネフローゼ症候群	13	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	0
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	2
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	8
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウルジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β ーケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・感染防止対策地域連携加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・抗菌薬適正使用支援加算
・特定機能病院入院基本料(7対1)	・患者サポート体制充実加算
・特定機能病院入院基本料(13対1)	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・臨床研修病院入院診療加算 基幹型	・ハイリスク妊娠管理加算
・救急医療管理加算	・ハイリスク分娩管理加算
・超急性期脳卒中加算	・入退院支援加算2
・妊産婦緊急搬送入院加算	・地域連携診療計画加算
・診療録管理体制加算2	・入院時支援加算
・医師事務作業補助体制加算(100対1)	・総合評価加算
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・呼吸ケアチーム加算
・看護職員夜間配置加算(12対1)配置加算2	・後発医薬品使用体制加算1
・看護補助加算2(50対1)(精神)	・病棟薬剤業務実施加算1
・療養環境加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・重症者等療養環境特別加算	・データ提出加算2
・無菌治療室管理加算1	・提出データ評価加算
・無菌治療室管理加算2	・認知症ケア加算2
・緩和ケア診療加算	・精神疾患診療体制加算
・個別栄養食事管理加算	・精神科急性期医師配置加算
・精神科身体合併症管理加算	・特定集中治療室管理料2
・精神科リエゾンチーム加算	・特定集中治療室管理料 小児加算
・摂食障害入院医療管理加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・がん診療連携拠点病院加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・栄養サポートチーム加算	・小児入院医療管理料2
・医療安全対策加算1	・小児入院医療管理料 プレイルーム加算
・感染防止対策加算1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・薬剤管理指導料
・高度難聴指導管理料	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・糖尿病合併症管理料	・医療機器安全管理料1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・医療機器安全管理料2
・がん患者指導管理料1	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・がん患者指導管理料2	・持続血糖測定器加算
・がん患者指導管理料3	・造血器腫瘍遺伝子検査
・移植後患者指導管理料 (臓器移植後)	・遺伝学的検査
・移植後患者指導管理料 (造血幹細胞移植後)	・抗HLA抗体(スクリーニング検査及び抗体特異性同定検査)
・糖尿病透析予防指導管理料	・HPV核酸検出
・小児運動器疾患指導管理料	・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・検体検査管理加算(IV)
・院内トリアージ実施料	・国際標準検査管理加算
・夜間休日救急搬送医学管理料	・遺伝カウンセリング加算
・救急搬送看護体制加算	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・外来リハビリテーション診療料	・植込型心電図検査
・外来放射線照射診療料	・時間内歩行試験及びシャルトウォーキングテスト
・ニコチン依存症管理料	・胎児心エコー法
・相談体制充実加算	・ヘッドアップティルト試験
・開放型病院共同指導料	・人工臓臓
・がん治療連携計画策定料	・皮下連続式グルコース測定
・がん治療連携管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来がん患者在宅連携指導料	・神経学的検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・補聴器適合検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ロービジョン検査判断料
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・コンタクトレンズ検査料1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・小児食物アレルギー負荷検査	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・内服・点滴誘発試験	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・画像診断管理加算1	・人工腎臓慢性維持透析を行った場合1
・画像診断管理加算2	・導入期加算1
・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・CT撮影及びMRI撮影	・一酸化窒素吸入療法
・冠動脈CT撮影加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・大腸CT撮影加算	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・心臓MRI撮影加算	・皮膚移植術(死体)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術))
・外来化学療法加算1	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))
・無菌製剤処理料	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・後縦靭帯骨化症(前方進入によるもの)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・腫瘍脊椎骨全摘術
・廃用症候群リハビリテーション料(I)	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・運動器リハビリテーション料(I)	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・がん患者リハビリテーション料	・羊膜移植術
・集団コミュニケーション療法料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・各リハビリテーションの初期加算	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・児童思春期精神科専門管理加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・認知療法・認知行動療法1	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・精神科作業療法	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・経皮的冠動脈形成術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・経カテーテル大動脈弁置換術	・同種死体腎移植術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・生体腎移植術
・磁気ナビゲーション加算	・膀胱水压拡張術
・経皮的な中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 リードレスペースメーカーの場合	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・輸血管理料 I
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・輸血適正使用加算
・補助人工心臓	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・経皮的な大動脈遮断術	・コーディネート体制充実加算
・ダメージコントロール手術	・自己生体組織接着剤作成術
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・自己クリオプレシピレート作製術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・麻酔管理料(I)
・体外衝撃波胆石破碎術	・麻酔管理料(II)
・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)	・外来放射線治療加算
・体外衝撃波膵石破碎術	・高エネルギー放射線治療

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
質の高い消化器がん診療の均てん化を目指した、専門医制度の評価・育成プログラム構築システムの開発	今野 弘之	-	¥14,946,000	厚生労働省 科学研究費
認知症発症リスクの減少および介護者等の負担軽減を目指したAge-Friendly Citiesの創生に関する研究	尾島 俊之	健康社会医学	¥2,732,000	厚生労働省 科学研究費
性分化・性成熟疾患群における診療ガイドラインの作成と普及	緒方 勤	小児科学	¥3,250,000	厚生労働省 科学研究費
ビッグデータからの機械学習による前立腺癌小線源療法の子後予測法の開発と均てん化への応用	中村 和正	放射線腫瘍学	¥9,000,000	厚生労働省 科学研究費
モチベーションの脳機能イメージング	尾内 康臣	生体機能イメージング研究室	¥20,300,000	独立行政法人日本 学術振興会
科学的臨床検査を目指した、標準化未踏である免疫学的検査データの標準化への挑戦	前川 真人	臨床検査医学	¥4,000,000	独立行政法人日本 学術振興会
乳幼児期早期の発達遅滞に関する、認知機能評価と脳MRIによる大規模追跡研究	武井 教使	子どものこころの発達研究センター	¥2,400,000	独立行政法人日本 学術振興会
胎生期低栄養が小胞体ストレス応答を介して成人期の脂肪蓄積リスクとなる機序の解析	伊東 宏晃	周産母子センター	¥4,000,000	独立行政法人日本 学術振興会
血中循環腫瘍細胞の新規検出方法開発と臨床応用	今野 弘之	外科学第二	¥4,000,000	独立行政法人日本 学術振興会
糖鎖模倣ペプチドIF7による腫瘍標的抗癌剤の研究開発	杉原 一廣	産婦人科学	¥4,900,000	独立行政法人日本 学術振興会
血管浮腫の観点からみた羊水寒栓症の診断、治療、予知・予防に関する研究	金山 尚裕	産婦人科学	¥2,000,000	独立行政法人日本 学術振興会
自閉スペクトラム症と注意欠如・多動症に共通する中間表現型と発症モデルの特定	土屋 賢治	子どものこころの発達研究センター	¥3,800,000	独立行政法人日本 学術振興会
DNA修復機構を標的とする分子標的画像法の開発—放射線治療効果予測を目指して—	間賀田 泰寛	分子病態イメージング研究室	¥3,500,000	独立行政法人日本 学術振興会
フェムト秒レーザーを用いた時間分解計測による生体光学特性値の推定	星 詳子	生体医用光学研究室	¥7,000,000	独立行政法人日本 学術振興会
世界初の機能亢進型GNAS生殖細胞変異の同定と新規GNAS機能低下発症機序の解明	緒方 勤	小児科学	¥4,800,000	独立行政法人日本 学術振興会
皮膚と消化管に共通発現するスプラシンの欠損が導く内因性アトピー性皮膚炎の解明	戸倉 新樹	皮膚科学	¥4,100,000	独立行政法人日本 学術振興会
アルツハイマー病における病因物質と保護性神経炎症・神経生存の生体画像化と治療戦略	尾内 康臣	生体機能イメージング研究室	¥5,600,000	独立行政法人日本 学術振興会
ユビキチンリガーゼSCRAPPERが調節するシナプス蛋白質の超解像イメージング	矢尾 育子	光イメージング研究室	¥800,000	独立行政法人日本 学術振興会
頭頸部癌患者の放射線治療による嚥下と筋力の悪化をリハビリ介入で予防できるか	安田 千里	リハビリテーション部	¥200,000	独立行政法人日本 学術振興会
うつ病に対する集団行動活性化療法の効果検討とプログラム開発	望月 洋介	精神医学	¥1,000,000	独立行政法人日本 学術振興会
標的/酵素特異性ハイブリッド型近赤外蛍光イメージング製剤の開発とがん診断への応用	清水 広介	分子病態イメージング研究室	¥1,300,000	独立行政法人日本 学術振興会
がん患者における病期に基づくオピオイドの鎮痛効果および有害作用の変動予測法の構築	川上 純一	薬剤部	¥1,100,000	独立行政法人日本 学術振興会
腫瘍ゲノムにおけるトランスポジショナル変異の解析	葺妻 友睦	腫瘍病理学	¥700,000	独立行政法人日本 学術振興会

統合失調症の脳内α7ニコチン様アセチルコリン受容体;PETによる研究	和久田 智靖	精神医学	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
神経性無食欲症の脳内α7ニコチン受容体の症候学的検討	横倉 正倫	精神医学	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規リンパシチンググラフィックパラメーターに基づく非侵襲的皮膚癌転移診断法の開発	藤原 雅雄	形成外科	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
門脈塞栓術後肝再生への脂質の関与	坂口 孝宣	外科学第二	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
臨床応用可能な経食道運動誘発電位の確立	椎谷 紀彦	外科学第一	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
非ウイルス的遺伝子導入法による自殺遺伝子幹細胞療法の開発とグリオーマ治療への応用	鮫島 哲朗	脳神経外科学	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳腫瘍に対する間葉系幹細胞を用いた治療研究	天野 慎士	脳神経外科学	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
セロトニン神経に着目したパーキンソン病での視床下核刺激の歩行・精神機能への効果	野崎 孝雄	脳神経外科学	¥18,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
光テクノロジーを利用した血液ブドウ糖濃度の連続測定法の開発	土井 松幸	集中治療部	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部密におけるエピゲノムプログラミング調節機構の解明	峯田 周幸	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
斜視手術が眼球に与える影響に関する研究	佐藤 美保	眼科学	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
テーラーメイド医療に向けた先天性視覚障害患者に対する診断プログラム開発と臨床応用	細野 克博	眼科学	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
超小型近赤外線分光計測装置を用いた救急室と災害現場での傷病者評価	齊藤 岳児	救急部	¥1,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
携帯型e-ポートフォリオを活用した臨床実習カリキュラムの開発	五十嵐 寛	臨床医学教育学	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
リハビリテーション効果向上に資する感情調整と認知機能の相互メカニズムの解明	大星 有美	生体機能イメージング研究室	¥2,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ADHDの親子中間表現型(認知,脳画像)の特定及び子への行動特性移行に関する研究	原田 妙子	子どものこころの発達研究センター	¥2,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
出生コホートをを用いた乳幼児期の睡眠と神経発達との関連の検証	奥村 明美	子どものこころの発達研究センター	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
いじめと不登校に関する縦断的学級調査	西村 倫子	子どものこころの発達研究センター	¥1,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
輻射輸送方程式の解析解	町田 学	生体医用光学研究室	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
がん患者における薬物代謝酵素の活性マーカーを用いたオビオイドの体内動態予測の評価	内藤 隆文	薬剤部	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺高血圧症新規治療薬の血中濃度測定系の確立とTDMの実用化に向けた研究	小田切 圭一	臨床薬理学	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
薬物分解エステラーゼPON3の遺伝子多型と薬物動態に関する臨床薬理学的検討	渡邊 裕司	臨床薬理学	¥1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
上皮間葉転換遺伝子データより見出された遺伝子の機能解析及び薬剤感受性に関する検討	山出 美穂子	内科学第一	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
S1PR2が原発性胆汁性胆管炎の疾患特異性と病態に及ぼす影響の解明と治療への応用	川田 一仁	内科学第二	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺障害・肺線維化における血管内皮細胞と線維芽細胞の相互作用	乾 直輝	臨床薬理学	¥1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
結核菌のハイブリッドエビトープ長鎖ペプチドを用いた新規ナノ粒子ワクチンの開発	榎本 紹一	内科学第一	¥1,600,000	補	独立行政法人日本学術振興会

	氏名	所属機関	金額	委員	学術振興会
腎臓内RASの日内変動における肝臓由来AGTの糸球体濾過圧の関与	大橋 温	内科学第一	¥1,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胎生期の低栄養環境による精巣機能障害の発症機序の解明	藤澤 泰子	小児科学	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
毛包の免疫寛容とその破綻における免疫チェックポイントPD-1/PD-L1の関わり	伊藤 泰介	皮膚科学	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患におけるDysbiosisと腸内細菌代謝産物が発癌に与える影響の解析	倉地 清隆	外科学第二	¥1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺癌神経浸潤を中心とした癌微小環境における脂質合成・代謝機構の解析	森田 剛文	外科学第二	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔細菌による出血性脳疾患の病態生理的解明	外村 和也	臨床医学教育学	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
植物性エストロゲンによる脳動脈瘤形成・破裂予防の研究	平松 久弥	脳神経外科学	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
HSVtk遺伝子導入Muse細胞を用いた膠芽腫治療戦略と生体モニタリングの開発	山崎 友裕	脳神経外科学	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
核磁気共鳴エラストグラフィと走査型超音波顕微鏡による頭蓋内腫瘍の弾性率解析	小泉 慎一郎	脳神経外科学	¥600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
骨粗鬆症性椎体骨折・脊柱変形によるロコモティブシンドロームへの影響に関する調査	戸川 大輔	整形外科	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ヘパリン/ヘパラン硫酸—細胞内シグナル伝達系を介する絨毛細胞の遊走制御機構	杉村 基	産婦人科家庭医療学(寄附講座)	¥1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自然免疫応答を介した蝸牛内炎症の難聴発症における役割および病態の解明	中西 啓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	¥1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌におけるニュートロエビジェネティクス解析	大和谷 崇	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	¥1,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
わが国の希少・未診断眼疾患患者に対する地域網羅的な診療体制の構築と診断法の開発	堀田 喜裕	眼科学	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
難治性外眼筋疾患の簡易診断法の開発とデータベース構築	彦谷 明子	眼科学	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
組織線維化の非侵襲的診断法の開発	間賀田 泰寛	分子病態イメージング研究室	¥1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
EMDRIによる外傷後ストレス障害の治療機転に関する脳画像研究	井上 淳	精神医学	¥6,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
婦人科癌の血清診断法の開発研究	杉原 一廣	産婦人科学	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
強迫性障害のディメンションに関する学校調査	高貝 就	児童青年期精神医学(寄附講座)	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
不注意症状の計測と臨床診断:注視点検出技術の新たな応用	土屋 賢治	子どものこころの発達研究センター	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
学校調査に基づいたじめ被害生徒のメンタルヘルス—自殺念慮を中心に—	武井 教使	子どものこころの発達研究センター	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腹部大動脈瘤術後2型エンドリックに対する血行動態学的予後予測因子の探索的研究	海野 直樹	脈管検査室	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胎盤病理所見と乳幼時期の発育・発達と比較検討—成人病発症予知マーカーの探索—	伊東 宏晃	周産母子センター	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳可塑性への働きかけに基づく言語障害リハビリテーション	岩渕 俊樹	子どものこころの発達研究センター	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉症者における認知—感情ネットワークの特異性に関する機能的脳画像研究	伊藤 大幸	子どものこころの発達研究センター	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

尿酸生成酵素阻害薬の最適投与設計法の確立	見野 靖晃	薬剤部	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
医療情報データベースを用いたARBの医薬品相互作用の探索法開発およびその機序解明	堀 雄史	薬剤部	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
マイクロアレイによる網羅的解析を用いた白血球細胞の薬剤感受性の解明	坂口 公祥	小児科学	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
先天白内障の病態解明のための3次元生体測定とデータベース構築	立花 信貴	眼科学	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉症スペクトラム障害児の包括的症状評価と適応行動に基づく介入プログラムの開発	大隅 香苗	児童青年期精神医学(寄附講座)	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
術後患者におけるデクスメトミジンの体内動態および臨床効果の個人差要因の解明	八木 達也	薬剤部	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肥満による重症喘息/難治性喘息の新規治療法の開発	鈴木 勇三	内科学第二	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
間質性肺疾患合併多発性筋炎/皮膚筋炎における筋炎特異的抗体とバイオマーカーの研究	穂積 宏尚	内科学第二	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
表皮角化細胞の分化およびバリア機能因子としてのsuprabasin	青島 正浩	皮膚科学	¥1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
水疱性類天疱瘡における水疱内好塩基球とTSLPとの相互作用	龍野 一樹	皮膚科学	¥1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
うつ病モデルにおける脳糖代謝異常のメカニズム解明	亀野 陽亮	精神医学	¥1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
アミノレプリン酸を用いたがん治療の個別化を可能にするPET画像法の開発研究	鈴木 千恵	分子病態イメージング研究室	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
人工心臓によるレミフェンタニルの蛋白結合率変化による薬物動態学的変化	植田 広	麻酔・蘇生学	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
CD8陽性リンパ球による絨毛炎の病態解析	古田 直美	周産母子センター	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胎生期低栄養後の肥満発症リスクの低減を目指した新たな介入方法の開発	幸村 友季子	産婦人科学	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌におけるリキッドバイオブシーによるエピジェネティック解析	遠藤 志織	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
36℃低体温法の心筋虚血再灌流障害保護作用:水素によるさらなるROSの制御	川島 信吾	麻酔・蘇生学	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
出生コホート研究を用いたADHDの早期兆候の特定	中原 竜治	子どものこころの発達研究センター	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
裂手裂足症を招く新規疾患成立機序の解明	永田 絵子	臨床研究管理センター	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
トキシコキネティクスに着目した第3世代アゾール系抗真菌薬の投与設計法の確立	山田 尚広	薬剤部	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
不規則抗体が関連する遅発性溶血性輸血副作用の真の発生頻度とその原因因子の解析	藤原 晴美	輸血・細胞治療部	¥1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
敗血症患者のミトコンドリアDNAの検討:好中球細胞外トラップとエクソソームの解析	辻 尚子	内科学第一	¥2,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
拒食症の改善に伴う脳内糖代謝とデフォルトモードネットワークの変化:PETとMRI	栗田 大輔	精神医学	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脂質解析に基づく大腸癌抗癌剤耐性機序の解明	平出 貴乗	臨床腫瘍学	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌におけるRNAメチル化修飾	望月 大極	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	¥1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
中咽頭癌個別化医療のためのクリニカルシーケンス導入の試み	今井 管志	耳鼻咽喉科・頭頸部	¥1,700,000	補	独立行政法人日本

	7月 第1回	外科学	11,100,000	委 補 委	学術振興会
エイコサペンタエン酸を用いた二次性リンパ浮腫に対する薬物治療法の開発	佐野 真規	外科学第二	¥2,000,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
膵癌早期診断に向けたMRエラストグラフィによる弾性率測定手法の新戦略	伊東 洋平	放射線診断学・核医学	¥1,400,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
高等教育機関における自閉症スペクトラム障害への合理的配慮提供に関する挑戦的研究	桑原 斉	子どものこころの発達研究センター	¥900,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
診療所組織を対象としたプライマリ・ケア向上プログラムの開発	井上 真智子	地域家庭医療学	¥3,086,846	補 委	独立行政法人日本学術振興会
閉塞性肥大型心筋症の病因解明-遺伝子型と表現型の関係-	前川 裕一郎	内科学第三	¥367,746	補 委	独立行政法人日本学術振興会
脳磁計を用いた自閉スペクトラム症における「許し」の脳内基盤の解明	平石 博敏	生体機能イメージング研究室	¥1,163,200	補 委	独立行政法人日本学術振興会
関節リウマチ患者におけるタクロリムスの体内動態と炎症性サイトカインとの関係解明	大城 隼也	薬剤部	¥550,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
実臨床におけるデスマブの体内動態の個人差要因およびその有効性・安全性の関係解明	志田 拓頭	薬剤部	¥550,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
抗がん剤投与における投与基準順守状況の解析及び非順守時の有害事象発現予測法の確立	加藤 文美	薬剤部	¥550,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
薬剤耐性対策アクションプランに基づく周術期クリニカルパスにおける予防抗菌薬適正化	丸山 早織	薬剤部	¥550,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
内視鏡および顕微鏡による低侵襲手術を支援する3D超音波診断装置の実用化開発と臨床研究	山本 清二	-	¥22,307,640	補 委	日本医療研究開発機構
効率的な治験の実施に資するGCPの運用等に関する研究	渡邊 裕司	臨床薬理学	¥2,215,390	補 委	日本医療研究開発機構
特発性間質性肺炎の診断精度向上とエビデンス創出のためのクラウド型統合データベースとインタラクティブ診断システムの開発に関する研究	須田 隆文	内科学第二	¥6,468,745	補 委	日本医療研究開発機構
精神的価値が成長する感性イノベーション拠点	山本 清二	イノベーション光医学研究室	¥45,737,900	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
成育希少疾患の症例登録と遺伝学的診断に関する研究	緒方 勤	小児科学講座	¥300,000	補 委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
ウイルスワクチンを安心安全に生産するための先端遺伝子工学技術の開発	鈴木 哲朗	感染症学講座	¥4,448,833	補 委	公益財団法人沖縄科学技術振興センター(沖縄県)
医療情報データベースに保存された医療情報の実践的な活用のためのデータ検証(バリデーション)	木村 通男	医療情報部	¥11,172,000	補 委	独立行政法人医薬品医療機器総合機構
FDG-PETによるアルツハイマー病の診断に関する多施設共同研究-SDAF-PET-	尾内 康臣	生体機能イメージング研究室	¥300,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
急性脊髄損傷患者に対する顆粒球コロニー刺激因子を用いたランダム化、プラセボ対照、二重盲検並行群間比較試験第III相試験	松山幸弘	整形外科学講座	¥713,000	補 委	公益社団法人日本医師会
注視点検出技術を活用した発達障がい診断システムの開発	土屋 賢治	子どものこころの発達研究センター	¥7,090,200	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性神経障害性疼痛患者を対象としたTEN-P11を用いた反復経頭蓋磁気刺激による大脳一次運動野刺激の有効性及び安全性の検討	杉山憲嗣	脳神経外科学講座	¥2,192,000	補 委	国立大学法人大阪大学
人間力活性化によるスーパー日本人の育成拠点	尾内 康臣	生体機能イメージング研究室	¥7,644,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
タウを標的とする新規画像診断法と治療法の研究開発コンソーシアム構築	尾内 康臣	生体機能イメージング研究室	¥4,850,000	補 委	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
全国のがんの遺伝カウンセリング実施施設の連携による遺伝性腫瘍の登録と追跡、解析拠点構築等に関する実証的研究	梶村 春彦	腫瘍病理学講座	¥1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究	尾内 康臣	生体機能イメージング研究室	¥1,200,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター

新規オキシトシン製剤を用いた自閉スペクトラム症の革新的治療法の開発と治療効果予測技術の開発、および発症とその改善効果発現のメカニズム解明に基づく次世代治療	山末 英典	精神医学講座	¥37,549,617	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
社会心理学・神経科学・内分泌学の連携による文化差の遺伝的基盤の解明	山末 英典	精神医学講座	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
人間力活性化によるスーパー日本人の育成拠点	山末 英典	精神医学講座	¥2,730,000	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
三次元像フローサイトメーター基盤技術の開発	岡崎 茂俊	医学分光応用寄附研究室	¥4,472,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
SGA性低身長に対する遺伝子診断システムの開発と遺伝学的原因に基づく身長予後および治療法の検討	緒方 勤	小児科学講座	¥2,500,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
遺伝解析とヒトiPS細胞由来神経細胞を用いた小児の視神経障害の病態と治療の研究	堀田 喜裕	眼科学講座	¥1,000,000	補委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
SS-MIXストレージを利用した、臨床研究の副作用情報等の報告手法に関する研究	木村 通男	医療情報部	¥10,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
自閉スペクトラム症中核症状に対する初の治療薬実用化のための医師主導多施設治験	山末 英典	精神医学講座	¥82,442,300	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
スマート治療室における患者情報統合モニター上にデータ表示可能な、外科医の指先や鏡視下手術鉗子ならびにロボットアーム先端に装着可能な小型組織オキシメーター温	海野 直樹	外科学第二講座	¥8,285,102	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
食道癌患者へのDCF療法時における成分栄養剤の口腔粘膜炎症抑制作用の検討ーエレンタール®非投与群を対照群としたランダム化第Ⅲ相比較臨床試験(EPOC2	菊池 寛利	外科学第二講座	¥54,000	補委	公益財団法人がん集学的治療研究財団
早期胃癌に対するセンチネルリンパ節を指標としたリンパ節転移診断と個別化手術の有用性に関する臨床試験	竹内 裕也	外科学第二講座	¥117,800	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
皮膚移植術の血流状態評価用オキシメーターの研究開発	海野 直樹	外科学第二講座	¥11,206,635	補委	関東経済産業局
質の高い消化器がん診療の均てん化を目指した、専門医制度の評価・育成プログラム構築システムの開発	今野 弘之	学長	¥14,946,000	補委	厚生労働省 科学研究費
認知症発症リスクの減少および介護者等の負担軽減を目指したAge-Friendly Citiesの創生に関する研究	尾島 俊之	健康社会医学	¥2,732,000	補委	厚生労働省 科学研究費
性分化・性成熟疾患群における診療ガイドラインの作成と普及	緒方 勤	小児科学	¥3,250,000	補委	厚生労働省 科学研究費
ビッグデータからの機械学習による前立腺癌小線源療法の前予測法の開発と均てん化への応用	中村 和正	放射線腫瘍学	¥9,000,000	補委	厚生労働省 科学研究費
全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースのNCD長期予後入力システムの構築に関する研究	今野 弘之	学長	¥120,000	補委	厚生労働省 科学研究費
遺伝性白質疾患の診断・治療・研究システムの構築	才津 浩智	医化学	¥500,000	補委	厚生労働省 科学研究費
社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究:NIPPON DATA80/90/2010	尾島 俊之	健康社会医学	¥450,000	補委	厚生労働省 科学研究費
母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究	尾島 俊之	健康社会医学	¥800,000	補委	厚生労働省 科学研究費
麻薬・向精神薬、法規制植物等の規制薬物の鑑別等に関する研究	長谷川 弘太郎	法医学	¥700,000	補委	厚生労働省 科学研究費
びまん性肺疾患に関する調査研究	須田 隆文	内科学第二	¥300,000	補委	厚生労働省 科学研究費
肝炎ウイルス検査受検から受診、受療に至る肝炎対策の効果検証と拡充に関する研究	小林 良正	内科学第二	¥500,000	補委	厚生労働省 科学研究費
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	松山 幸弘	整形外科	¥250,000	補委	厚生労働省 科学研究費
難治性聴覚障害に関する調査研究	中西 啓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	¥500,000	補委	厚生労働省 科学研究費
先天異常症候群領域の指定難病等のQOLの向上を目指す包括的研究	緒方 勤	小児科学	¥800,000	補	厚生労働省

	氏名	所属機関	円	種別	備考
ラインゾーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究	福田 冬季子	小児科学	¥700,000	補	科学研究費 厚生労働省
疾患予後と医療の質の改善を目的とした多領域横断的な難治性肺高血圧症例登録研究	渡邊 裕司	臨床薬理学	¥300,000	補	厚生労働省 科学研究費
潰瘍性大腸炎患者に対する青黛治療の有害事象実態調査と機序解明	渡邊 裕司	臨床薬理学	¥600,000	補	厚生労働省 科学研究費
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	沖 隆	地域家庭医療学	¥150,000	補	厚生労働省 科学研究費
地域・職域連携の推進による生活習慣病予防等に関する研究	巽 あさみ	地域看護学講座 公衆衛生看護学	¥700,000	補	厚生労働省 科学研究費
データの利活用も見据えた標準規格策定の方向性に関する研究	木村 通男	医療情報部	¥1,100,000	補	厚生労働省 科学研究費
小児期から移行期・成人期を包括する希少難治性慢性消化器疾患の医療政策に関する研究	川原 央好	小児外科	¥100,000	補	厚生労働省 科学研究費
妊産婦及び乳幼児の栄養管理の支援のあり方に関する研究	伊東 宏晃	周産母子センター (産婦人科学)	¥500,000	補	厚生労働省 科学研究費

計 184件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Tani S, Takano R, Tamura S,	細菌免疫学	Digoxin attenuates murine experimental colitis by downregulating Th17-related cytokines.	Inflammatory Bowel Diseases, 23, 728-738, 2017.	Original Article
2	Kuroda R, Miyajima, H Nakada T,	内科学第一	The TriAge+ Score for Vertigo or Dizziness: A Diagnostic Model for Stroke in the Emergency Department.	J Stroke Cerebrovasc Dis 26(5): 1144-1153, 2017.	Original Article
3	Suzuki S, Sugiyama T, Hamaya Y	内科学第一	MBD4 frameshift mutation caused by DNA mismatch repair deficiency enhances cytotoxicity by trifluridine, an active antitumor agent of TAS-102, in colorectal cancer cells.	Oncotarget 15:11477-11488, 2017.	Original Article
4	Ishigaki S, ujikura T, Tsuji T,	内科学第一	Melatonin ameliorates intrarenal renin-angiotensin system in a 5/6 nephrectomy rat model,	Clin Exp Nephrol, 20, 2017	Original Article
5	Kagami T, Yamade M, Hamaya Y,	内科学第一	Comparative Study of Effects of Vonoprazan and Esomeprazole on Antiplatelet Function of Clopidogrel or Prasugrel in Relation to CYP2C19 Genotype.	Clin Pharmacol Ther. 2018 May;103(5):906-913. doi: 10.1002/cpt.863. Epub 2017 Oct 13.	Original Article
6	Suzuki S, Sugiyama T, Hamaya Y,	内科学第一	MBD4 frameshift mutation caused by DNA mismatch repair deficiency enhances cytotoxicity by trifluridine, an active antitumor agent of TAS-102, in colorectal cancer cells.	Oncotarget 15:11477-11488, 2017.	Original Article
7	Isobe S, Tsuji T, Yasuda H	内科学第一	Increased nocturnal blood pressure variability is associated with renal arteriolar hyalinosis in normotensive patients with IgA nephropathy.	Hypertens Res. 2017;40(11):921-926.	Original Article

8	Yoshimura K, Kono M, Enomoto Y,	内科学第二	Distinctive characteristics and prognostic significance of interstitial pneumonia with autoimmune features in patients with chronic fibrosing interstitial pneumonia.	Respir Med.137:167-175.2018	Original Article
9	Yoshimura K, Inui N, Suda T	内科学第二	Distinct prognostic roles and heterogeneity of TTF1 copy number and TTF1 protein expression in non-small cell lung cancer.	Genes Chromosomes Cancer 56(7): 570-581, 2017.	Original Article
10	Enomoto Y, Fujisawa T, Enomoto N,	内科学第二	Podoplanin-positive myofibroblasts: a pathological hallmark of pleuroparenchymal fibroelastosis.:	Histopathology. 2018 Feb 22	Original Article
11	Mikamo M, Inui N, Suda T,	内科学第二	Inhibiting Skp2 E3 Ligase Suppresses Bleomycin-Induced Pulmonary Fibrosis.	Int J Mol Sci. 2018 Feb 6;19(2)	Original Article
12	Suzuki Y, Oyama Y, Hozumi H,	内科学第二	Persistent impairment on spirometry in chronic eosinophilic pneumonia: A longitudinal observation study (Shizuoka-CEP study).	Ann Allergy Asthma Immunol. 2017, 119:422-8 e2:57-64	Original Article
13	Kato S, Inui N, Hozumi H,	内科学第二	Neutrophil gelatinase-associated lipocalin in patients with sarcoidosis.	Respir Med. 2018 Jan 11. pii: S0954-6111(18)30005-2	Original Article
14	Karayama M, Inui N,Kono M,	内科学第二	Respiratory impedance is correlated with airway narrowing in asthma using three-dimensional computed tomography.	Clin Exp Allergy.48(3):278-287, 2018	Original Article
15	Suda T, Nishimoto K, Fujisawa 1	内科学第二	The prognostic significance of pneumothorax in patients with idiopathic pulmonary fibrosis.	Respirology. 2018 May;23(5):519-525.	Original Article
16	Nishimoto K, Karayama M, Inui N,	内科学第二	Relationship between fraction of exhaled nitric oxide and airway morphology assessed by three-dimensional CT analysis in asthma.	Scientific Reports 7: 10187, 2017	Original Article

17	Inoue Y, Inui N, Suda T,	内科学第二	Characterization of V-set and immunoglobulin domain containing 1 exerting a tumor suppressor function in gastric, lung, and esophageal cancer cells.	Cancer Sci:108(8):1701-14, 2017.	Original Article
18	Inoue Y, Inui N, Suda T	内科学第二	Prognostic impact of CD73 and A2A adenosine receptor expression in non-small-cell lung cancer.	Oncotarget. 2017, 8:8738-51	Original Article
19	Enomoto N, Oyama Y, Suzuki Y,	内科学第二	Body size-adjusted dose analysis of pirfenidone in patients with interstitial pneumonia.	Respirology : doi:10.1111/resp.13145, 2017.	Original Article
20	Enomoto Y, Nakamura Y, Yasui H,	内科学第二	Clinical diagnosis of idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis: A retrospective multicenter study.	Respir Med 133: 1-5, 2017.	Original Article
21	Enomoto Y, Nakamura Y, Oyama Y,	内科学第二	Radiologic pleuroparenchymal fibroelastosis-like lesion in connective tissue disease-related interstitial lung disease.	PLoS One 12(6): e0180283, 2017.	Original Article
22	Nakamura Y, Kono M, Hozumi H,	内科学第二	Type-1 polarised dendritic cells are a potent immunogen against Mycobacterium tuberculosis.	Int J Tuberc Lung Dis 21(5): 523-530, 2017.	Original Article
23	Suda T, Harada M, Sakai S,	内科学第二	Homeobox Transcription Factor NKX2-1 Promotes Cyclin D1 Transcription in Lung Adenocarcinomas.	Mol Cancer Res 15(10): 1388-1397, 2017	Original Article
24	Fujisawa T, Hozumi H, Kono M,	内科学第二	Predictive factors for long-term outcome in polymyositis/dermatomyositis-associated interstitial lung diseases.	Respiratory Investigation 55(2): 130-137, 2017.	Original Article
25	Furuhashi K, Chua YL, Wong KHS,	内科学第二	Priming with high and low respiratory allergen dose induces differential CD4+T helper type 2 cells and IgE/IgG1 antibody responses in mice.	Immunology 151(2): 227-238, 2017.	Original Article
26	Hozumi H, Fujisawa T, Enomoto N,	内科学第二	Clinical Utility of YKL-40 in Polymyositis/dermatomyositis-associated Interstitial Lung Disease.	J Rheumatol 44(9): 1394-1401, 2017	Original Article

27	Kobayashi Y, Suda, T,	内科学第二	Critical role of CREBH-mediated induction of TGF- β 2 by HCV infection in fibrogenic responses in hepatic stellate cells.	Hepatology 66 (5); 1430-1443, 2017	Original Article
28	Yamazaki S , Suda T,Kobayashi Y	内科学第二	Rapid changes in serum lipid profiles during combination therapy with daclatasvir and asunaprevir in patients infected with hepatitis C virus genotype 1b.	Gut and Liver 15;12(2):201-207,2018	Original Article
29	Akita K, Maekawa Y,	内科学第三	Ameliorating the severity of sleep-disordered breathing concomitant with heart failure status after percutaneous transluminal septal myocardial ablation for drug-refractory hypertrophic obstructive cardiomyopathy.	Heart Vessels. 2017 Nov;32(11):1320-1326.	Original Article
30	Satoh T, Saotome M, Hasan P,	内科学第三	Intracellular Renin Inhibits Mitochondrial Permeability Transition Pore via Activated Mitochondrial Extracellular Signal-Regulated Kinase (ERK) 1/2 during Ischemia in Diabetic Hearts.	Int J Mol Sci. 2017 Dec 25;19(1).	Original Article
31	Sakamoto A, Saotome M, Hasan P,	内科学第三	Eicosapentaenoic acid ameliorates palmitate-induced lipotoxicity via the AMP kinase/dynamin-related protein-1 signaling pathway in differentiated H9c2 myocytes.	Exp Cell Res. 2017 ;351(1):109-120.	Original Article
32	Fukatsu Y, Nagata Y, Adachi M,	内科学第三	Serum IgM levels independently predict immune response to influenza vaccine in long-term survivors vaccinated at >1 year after undergoing allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Int J Hematol. 105(5):638-645, 2017	Original Article

33	Yamasue H*	精神医学	Effect of intranasal oxytocin on the core social symptoms of autism spectrum disorder: A randomized clinical trial.	Molecular Psychiatry, in press (2018年3月6日アクセプト)	Original Article
34	Nakaizumi K, Yokokura M, Ouchi Y,	精神医学	In vivo depiction of $\alpha 7$ nicotinic receptor loss for cognitive decline in Alzheimer's disease.	J Alzheimers Dis. 61(4):1355-1365, 2018.	Original Article
35	Shiia N, Washiyama N, Yamanaka K,	第一外科	Japanese perspective in surgery for thoracoabdominal aortic aneurysms. Gen Thorac Cardiovasc Surg.	Sep 20, epub ahead of print, 2017.	Original Article
36	Shiia N, Washiyama N, Yamashita K,	第一外科	Carotid stenosis with impaired brain flow reserve is associated with an increased risk of stroke in on-pump cardiovascular surgery. Interact Cardiovasc Thorac Surg.	Feb 26, epub ahead of print 2018	Original Article
37	Shiia N, Satoh H, Yamashita K,	第一外科	Characterizing saccular aortic arch aneurysms from the geometry-flow dynamics relationship.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2017 Jun;153(6):1413-1420.	Original Article
38	Ogura H, Shiia N,	第一外科	Recurrent triple-negative breast cancer (TNBC) tissues contain a higher amount of phosphatidylcholine (32:1) than non-recurrent TNBC tissues.	PLoS One. 2017 Aug 23;12(8):e0183724.	Original Article
39	Funai K.	第一外科	Can Vessel Invasion Change the TNM Stage in Non-small Cell Lung Cancer? A Reply.	Annals of surgical oncology. 24:670, 2017.	Original Article
40	Funai K, Shimizu K, Kirita K,	第一外科	Clinicopathological significance of caveolin-1 expression by cancer-associated fibroblasts in lung adenocarcinoma. J Cancer Res	Clin Oncol. 143(2):321-328, 2017.	Original Article
41	Funai K, Nakamura T*, Otsuki Y,	第一外科	Pleural lavage cytology after lung resection in patients with non-small cell lung cancer and the feasibility of 20 mL saline solution.	Asian J Surg. 2018.	Original Article

42	Takeuchi H, Miyata H, Ozawa S,	第二外科	Comparison of Short-Term Outcomes Between Open and Minimally Invasive Esophagectomy for Esophageal Cancer Using a Nationwide Database in Japan.	Annals of SURGICAL ONCOLOGY, 24(7): 1821-1827, 2017.	Original Article
43	Sakaguchi T, Kikuchi H, Hiraide T,	第二外科	The role of positron-emission tomography/computed tomography in patients with colorectal liver metastases who are candidates for liver resection: Is it useful?	J Surg 5(1) 7, 2017	Original Article
44	Kikuchi H, Hiramatsu Y, Kamiya K,	第二外科	Tenascin C in colorectal cancer stroma is a predictive marker for liver metastasis and is a potent target of miR-198 as identified by microRNA analysis.	Br J Cancer. 117(9):1360-1370, 2017.	Original Article
45	Kikuchi H, Kamiya K, Miyata H,	第二外科	Development and external validation of preoperative risk models for operative morbidities after total gastrectomy using a Japanese web-based nationwide registry.	Gastric Cancer. 20(6):987-997, 2017.	Original Article
46	Yamasaki T, Koizumi S, Sameshima T,	脳神経外科	Genetically engineered multilineage-differentiation stress-enduring cells as cellular vehicles against malignant gliomas.	Mol Ther Oncolytics 6: 45-56, 2017.	Original Article
47	Arima H, Yamato Y, Hasegawa T,	整形外科	Discrepancy between Standing Posture and Sagittal Balance during Walking in Adult Spinal Deformity Patients.	Spine 42(1):E25-E30.2017.	Original Article
48	Arima H, Yamato Y, Hasegawa T	整形外科	Extensive Corrective Fixation Surgeries for Adult Spinal Deformity Improve Posture and Lower Extremity Kinematics During Gait.	Spine 42(19):1456-1463.2017.	Original Article
49	Arima H, Mihara Y, Matsuyama Y	整形外科	Low-intensity pulsed ultrasound is effective for progressive-stage lumbar spondylolysis with MRI high-signal change.	Eur Spine J 26(12):3122-3128.2017.	Original Article
50	Arima H, Yamato Y, Hasegawa T,	整形外科	Age variation in the minimum clinically important difference in SRS-22r after surgical treatment for adult spinal deformity - A single institution analysis in Japan.	J Orthop Sci 23(1):20-25, 2018.2017.	Original Article

51	Banno T, Hasegawa T, Yamato Y,	整形外科	Accuracy of Iliac Screws Insertion in Adult Spinal Deformity Surgery : Relationship between Misplacement and the Iliac Morphologies.	Clin Spine Surg 30(4):E407-E41.2017.	Original Article
52	Banno T, Omura T, Xu D,	整形外科	Arachidonic acid containing phosphatidylcholine increases due to microglial activation in ipsilateral spinal dorsal horn following spared sciatic nerve injury.	PLoS One 12(5):e0177595.2017.	Original Article
53	Banno T, Yamato Y, Hasegawa T	整形外科	Assessment of the Cross-Sectional Areas of the Psoas Major and Multifidus Muscles in Patients With Adult Spinal Deformity: A Case-Control Study.	Clin Spine Surg 30(7):E968-E973.2017.	Original Article
54	Banno T, Hasegawa T, Yamato Y,	整形外科	Prevalence and Risk Factors of Iliac Screw Loosening After Adult Spinal Deformity Surgery.	Spine 42(17):E1024-E1030.2017.	Original Article
55	Banno T, Hasegawa T, Yamato Y	整形外科	Assessment of the Change in Alignment of Fixed Segment after Adult Spinal Deformity Surgery.	Spine 43(4):262-269, 2018.2017.	Original Article
56	Furuhashi H, Togawa D, Koyama H,	整形外科	Repeated posterior dislocation of total hip arthroplasty after spinal corrective long fusion with pelvic fixation.	Eur Spine J 26(Suppl 1):100-106.2017.	Original Article
57	Hanada M, Hoshino H, Matsuyama Y	整形外科	Relationship between severity of knee osteoarthritis and radiography findings of lower limbs: A cross-sectional study from the TOEI survey.	J Orthop 14(4):484-488.2017.	Original Article
58	Matsuyama Y, Chiba K, Iwata H,	整形外科	A multicenter, randomized, double-blind, dose-finding study of condoliase in patients with lumbar disc herniation.	J Neurosurg Spine 9:1-13, 2018.2017.	Original Article
59	Shido Y, Matsuyama Y	整形外科	Advanced Alveolar Soft Part Sarcoma Treated with Pazopanib over Three Years.	Case Rep Oncol Med 2017:3738562.2017.	Original Article
60	Ushirozako H, Banno T, Matsuyama Y	整形外科	Does N-terminal Pro-brain Type Natriuretic Peptide Predict Cardiac Complications After Hip Fracture Surgery? . .	Clin Orthop Relat Res 475(6):1730-1736.2017	Original Article

61	Xu D, Furuhashi H, Nishikino S,	整形外科	Comparison of hip muscle volume between fit-and-fill stem and tapered-wedge stem after total hip arthroplasty using the anterolateral approach.	J Orthop Sci 22(6):1102-1106.2017.	Original Article
62	Yoshida G, Yamato Y, Hasegawa T,	整形外科	Novel Measurement Technique for the Sagittal Vertical Axis and Its Clinical Application in Adult Spinal Deformity.	Asian Spine J 11(2):190-197.2017.	Original Article
63	Yoshida G, Hasegawa T, Yamato Y,	整形外科	Predicting Perioperative Complications in Adult Spinal Deformity Surgery Using a Simple Sliding Scale.	Spine Sep 6. doi: 10.1097/BRS.0000000000002411. .2017	Original Article
64	Yoshida G,	整形外科	ESSG, European Spine Study Group.: Advantages and Disadvantages of Adult Spinal Deformity Surgery and Its Impact on Health-Related Quality of Life.	Spine 42(6):411-419.2017.	Original Article
65	Yoshida G,	整形外科	Global Spinal Alignment in Patients with Cervical Spondylotic Myelopathy.	Spine 43(3):E154-E162, 2018.2017.	Original Article
66	Tokura Y, Yatagai T, Shimauchi T,	皮膚科	Sensitive skin is highly frequent in extrinsic atopic dermatitis and correlates with disease severity markers but not necessarily with skin barrier impairment,	J Dermatol Sci, 89(1), 33-39, 2018.	Original Article
67	Tokura Y, Ikeya S, Sakabe J,	皮膚科	Voriconazole-induced photocarcinogenesis is promoted by aryl hydrocarbon receptor-dependent COX-2 upregulation,	Sci Rep, 8(1), 5050, 2018.	Original Article
68	Miyake H*, Matsushita Y, Motoyama D,	泌尿器科	Impact of prior androgen receptor-axis-targeted agents on the clinical activity of subsequent docetaxel in patients with metastatic castration-resistant prostate cancer: comparative assessment between abiraterone acetate and enzalutamide.	Med Oncol 34: 200, 2017.	Original Article

69	Miyake H*, Imai S, Ozono S,	泌尿器科	The inverse association between baseline renal function and overall survival in patients with metastatic renal cell carcinoma who were treated with molecular-targeted agents.	Curr Urol 10: 186-192, 2017.	Original Article
70	Miyake H*, Sugiyama T, Tamura K,	泌尿器科	Comparative assessment of efficacies between 2 alternative therapeutic sequences with novel androgen receptor-axis-targeted agents in patients with chemotherapy-naïve metastatic castration-resistant prostate	Clin Genitourin Cancer 15: e591-e597, 2017.	Original Article
71	Miyake H*, Sugiyama T, Aki R,	泌尿器科	No significant impact of prior treatment profile with docetaxel on the efficacy of cabazitaxel in Japanese patients with metastatic castration-resistant prostate cancer.	Med Oncol 34: 141, 2017.	Original Article
72	Miyake H*,Sugiyama T, Tamura K,	泌尿器科	Comparison of tyrosine kinase inhibitor versus mammalian target of rapamycin inhibitor as second-line molecular-targeted therapy for patients with poor-risk metastatic renal cell carcinoma.	Anticancer Res 37: 1523-1528, 2017.	Original Article
73	Miyake H*, Tei H, Fujiwara M	泌尿器科	Geriatric nutrition risk index is an important predictor of cancer-specific survival, but not recurrence-free survival, in patients undergoing surgical resection for non-metastatic renal cell carcinoma.	Curr Urol 10: 26-31, 2017.	Original Article
74	Miyake H*, Sugiyama T, Tamura K,	泌尿器科	Independent association between time to prostate-specific antigen (PSA) nadir and PSA progression-free survival in patients with docetaxel-naïve, metastatic castration-resistant prostate cancer receiving abiraterone acetate, but not enzalutamide.	Urol Oncol 35: 432-437, 2017.	Original Article

75	Miyake H*, Terakawa T, Ozono S,	泌尿器科	Comparative assessment of clinical outcomes between abiraterone acetate and enzalutamide in patients with docetaxel-naïve metastatic castration-resistant prostate cancer: experience in real-world clinical practice in Japan.	Clin Genitourin Cancer 15: 313-319, 2017.	Original Article
76	Miyake H*,	泌尿器科	Impact of prior use of an androgen receptor-axis-targeted (ARAT) agent with or without subsequent taxane therapy on the efficacy of another ARAT agent in patients with metastatic castration-resistant prostate cancer.	Clin Genitourin Cancer 15: e217-e222, 2017.	Original Article
77	Miyake H*, Ozono S, Fujisawa M	泌尿器科	Assessment of efficacy, safety and quality of life of 124 patients treated with axitinib as second-line therapy for metastatic renal cell carcinoma: Experience in real world clinical practice in Japan.	Clin Genitourin Cancer 15: 122-128, 2017.	Original Article
78	Motoyama D, Ishii Y, Takehara Y	泌尿器科	Four-dimensional phase-contrast vastly undersampled isotropic projection reconstruction (4D PC-VIPR) MR evaluation of the renal arteries in transplant recipients: Preliminary results.	J Magn Reson Imaging 46: 595-603, 2017.	Original Article
79	Kurata K, Hosono K, Hotta Y	眼科	Long-term clinical course in a patient with complete congenital stationary night blindness.	Case Rep Ophthalmol 8(1) 237-244, 2017.	Original Article
80	Nagase Y, Kurata K, Hosono K,	眼科	Visual outcomes in Japanese patients with retinitis pigmentosa and Usher Syndrome caused by USH2A mutations.	Semin in Ophthalmol, 2017 Jul 5:1-6. doi: 10.1080/08820538.2017.1340487	Original Article
81	Kurata K, Hosono K, Hotta Y	眼科	Long-term clinical course of two Japanese patients with PRPF31-related retinitis pigmentosa.	Jpn J Ophthalmol 62(2) 186-193, 2018.	Original Article
82	Hosokawa S, Takahashi G, Okamura J	耳鼻咽喉科	Risk and prognostic factors for multiple primary carcinomas in patients with head and neck cancer.	Jpn J Clin Oncol 48(2); 124-129, 2018.	Original Article

83	Kita JY*, Hosokawa S*, Suzuki K,	耳鼻咽喉科	Quattro Flap Tracheotomy – The impact of a novel surgical technique for young infants.	J Pediatr Surg 52(8); 1371– 1375, 2017. *Both authors contributed equally.	Original Article
84	Hosokawa S,Hosokawa K, Takebayashi S,	耳鼻咽喉科	Hyperbaric Oxygen Therapy as Adjuvant Treatment for Idiopathic Sudden Sensorineural Hearing Loss after Failure of Systemic Steroids.	Audiol Neurootol 22(1); 9– 14, 2017.	Original Article
85	Misawa K*, Mochizuki D, Imai A	耳鼻咽喉科	Epigenetic silencing of SALL3 is an independent predictor of poor survival in head and neck cancer.	Clinical Epigenetics; 12(9): 64, 2017	Original Article
86	Misawa K*, Imai A, Mochizuki D	耳鼻咽喉科	Genes encoding neuropeptide receptors are epigenetic markers in patients with head and neck cancer: a site-specific analysis.	Oncotarget; 8(44) 76318– 76328, 2017	Original Article
87	Misawa K*, Misawa Y, Imai A,	耳鼻咽喉科	Epigenetic modification of SALL1 as a novel biomarker for the prognosis of early tumor stage patients with head and neck cancer.	Journal of Cancer; 9(6): 941– 949, 2018	Original Article
88	Yamatodani T, Mizuta K, Endo S,	耳鼻咽喉科	Clinical analysis of secondary acquired cholesteatoma.	Arch Gen Intern Med 1(2); 10–14, 2017.	Original Article
89	Nakanishi H,Kawashima Y, Kurima K,	耳鼻咽喉科	NLRP3 mutation and cochlear autoinflammation cause syndromic and nonsyndromic hearing loss DFNA34 responsive to anakinra therapy.	Proc Natl Acad Sci U S A 114: E7766–E7775, 2017.	Original Article
90	Nakanishi H,Kawashima Y, Kurima K,	耳鼻咽喉科	Gradual Symmetric Progression of DFNA34 Hearing Loss Caused by an NLRP3 Mutation and Cochlear Autoinflammation.	Otol Neurotol 39: e181– e185, 2018.	Original Article
91	Misawa Y, Misawa K*,Imai A,	耳鼻咽喉科	The evaluation of epigenetic inactivation of vascular endothelial growth factor receptors of head and neck squamous cell carcinoma.	Tumour Biology.; 39(7): 1010428317711650, 2017	Original Article
92	Tsuchiya M, Masui T, Otsuki Y	放射線診断学・核医学	¹⁸ F-FDG PET/CT findings of mesenchymal chondrosarcoma of the orbit.	Clin Nucl Med 43 (2): e43– e45, 2018.	Original Article

93	Yoshizawa N, Ueda Y, Mimura T,	放射線診断学・核医学	Factors affecting measurement of optic parameters by time-resolved near-infrared spectroscopy in breast cancer.	J Biomed Opt 23 (2): 1-6, 2018.	Original Article
94	Tamura N, Farhana M, Oda T	産婦人科	Amniotic fluid embolism: Pathophysiology from the perspective of pathology,	J Obstet Gynaecol Res, 43 (4), 627-632, 2017.	Original Article
95	Itoh H, Muramatsu-Kato K. Ferdous UJ.	産婦人科	Undernourishment in utero and hepatic steatosis in later life; A potential issue in Japanese people.	A Review. Congenit Anom, 57, 178-183, 2017.	Original Article
96	Urmi Jeenat Ferdous,伊東宏晃, 金山尚裕	産婦人科	Undernourishment in utero not only regulates morphology of hepatocyte but also primes dynamic changes in lipid composition,	DOHaD研究 6(1), 47-48, 2017.	Original Article
97	Ogata T*,Ohtaka K, Fujisawa Y,	小児科	FGFR1 Analyses in Four Patients with Hypogonadotropic Hypogonadism with Split-Hand/Foot Malformation: Implications for the Promoter Region.	Hum Mutat 38 (5): 503-506, 2017. doi: 10.1002/humu.23178. Epub 2017 Feb	Original Article
98	Ogata T*,Yamamoto K, Saito H,	小児科	De Novo IGF2 Mutation on the Paternal Allele in a Patient with Silver-Russell Syndrome and Ectrodactyly.	Hum Mutat 38 (8): 953-958, 2017 May 10. doi: 10.1002/humu.23253. [Epub ahead of print].	Original Article
99	Ogata T*,Sano S,	小児科	(Epi)genotype-phenotype analysis in 69 Japanese patients with pseudohypoparathyroidism type I.	J Endocr Soc 2 (1): 9-23, 2017. doi: 10.1210/js.2017-00293. eCollection 2018 Jan 1.	Original Article
100	Ogata T*,Yamamoto K, Okamoto S,	小児科	FGFR1 Disruption Identified by Whole Genome Sequencing in a Male With a Complex Chromosomal Rearrangement and Hypogonadotropic Hypogonadism.	Am J Med Genet A 176 (1): 139-143, 2018. doi: 10.1002/ajmg.a.38535. Epub 2017 Nov 21.	Original Article
101	Ogata T*,Ono H, Numakura C,	小児科	Longitudinal Serum and Urine Steroid Metabolite Profiling in a 46,XY Infant with Prenatally Identified POR Deficiency.	J Steroid Biochem Mol Biol 178: 177-184, 2018. doi: 10.1016/j.jsbmb.2017.12.008. Epub 2017 Dec 28.	Original Article

102	Ogata T*,Ono H, Saitsu H,	小児科	Partial androgen insensitivity syndrome caused by a deep intronic mutation creating an alternative splice acceptor site of the AR gene.	Sci Rep 8 (1): 2287, 2018. doi: 10.1038/s41598-018-20691-9.	Original Article
103	Ogata T*,Hiraide T, Nakashima M,	小児科	.De novo variants in SETD1B are associated with intellectual disability, epilepsy and autism.	Hum Genet. 2018 Jan;137(1):95-104.	Original Article
104	Ishikawa T, Seki K.	小児科	The association between oxidative stress and endothelial dysfunction in early childhood patients with Kawasaki disease.	BMC Cardiovasc Disord. 18(1), 30-37, 2018.	Original Article
105	Hayashi Y, Mikawa S, Masumoto K,	歯科口腔外科	GDF11 expression in the adult rat central nervous system.	J Chem Neuroanat. 89: 21-36, 2018.	Original Article
106	Maekawa M,	臨床検査医学	Immunohistochemical expression analysis of leucine-rich PPR-motif-containing protein (LRPPRC), a candidate colorectal cancer biomarker identified by	Clinica Chimica Acta 471, 276-282, 2017.	Original Article
107	Yamanama K, Fujisawa T, Kusagaya H	臨床検査医学	IL-13 regulates IL-17C expression by suppressing NF- κ B-mediated transcriptional activation in airway epithelial cells.	Biochemical and Biophysical Research Communications 495 1534-1540, 2018.	Original Article
108	Iijima S;	地域周産期医療学	Sonographic evaluation of adrenal size in neonates (23 to 41 weeks of gestation),	BMC Pediatr 18: 1, 2018	Original Article
109	Oe S, Togawa D,	長寿運動器疾患教育研究	Effects of mirror placement on sagittal alignment of the spine during acquisition of full-spine standing X-Rays.	Eur Spine J. 2017 Oct 19. [Epub ahead of print],,2017.	Original Article
110	Oe S, Togawa D,	長寿運動器疾患教育研究	Difference in Spinal Sagittal Alignment and Health-Related Quality of Life between Males and Females with Cervical Deformity.	Asian Spine J 11(6):959-967,2017.	Original Article
111	Oe S, Togawa D,	長寿運動器疾患教育研究	Cut-off values of and factors associated with a negative influence on Neck Disability Index.	Eur Spine J. 2018 Mar 22. doi: 10.1007/s00586-018-5555-7,2017.	Original Article

112	Fujiwara M, Fukamizu H,	形成外科	Lymphatic transit rate as a predictive parameter for nodal metastasis in primary limb malignant melanoma.	J Dermatol Sci. 90 (1) 27-34 .2018	Original Article
113	Fujiwara M,Senoo A, Fukamizu H,	形成外科	Evaluation of positron emission tomography imaging to detect lymph node metastases in patients with extramammary Paget's disease.	J Dermatol. 44:939-943, 2017.	Original Article
114	Fujiwara M,Fukamizu H,	形成外科	Successful treatment of postburn flexion contracture in fingers of early childhood with dynamic splint therapy after operation: long-term follow-up.	Eur J Plast Surg 40(6):555-562, 2017.	Original Article
115	Kawahara H, Tazuke Y, Soh H,	小児外科	Characteristics of gastroesophageal reflux in pediatric patients with neurological impairment.	Pediatr Surg Int. 33:1073-1079, 2017.	Original Article
116	Furuhashi K, Chua YL, Wong KH,	検査部	Priming with high and low respiratory allergen dose induces differential CD4+Th2 cells and IgE/IgG1 antibody response in mice.	Immunology. 151:227-238, 2017	Original Article
117	Kurita T,Morita K, Nakajima Y	手術部	Dobutamine, a β 1 Adrenoceptor Agonist, Increases Cerebral Oxygenation During Acute Anemia and Apneic Hypoxia,	Neurocrit Care, 27(3), 420-429, 2017	Original Article
118	Kurita T,Morita K, Nakajima Y	手術部	Use of a Short-Acting β 1 Blocker During Endotoxemia May Reduce Cerebral Tissue Oxygenation if Hemodynamics are Depressed by a Decrease in Heart Rate.,	Shock., 47 (6) , 765-771, 2017.	Original Article
119	Yukako Obata, Kazuhiko Takeuchi, Jiazhang Wei,	輸血細胞治療部	Interactions between bradykinin and plasmin in the endothelial Ca ²⁺ response,	Molecular and Cellular Biochemistry, 2017. (doi:10.1007/s11010-017-3263-y)	Original Article
120	NagafusaT,Kondo R	リハビリテーション部	Effect of corrective long spinal fusion to the ilium on physical function in patients with adult spinal deformity.	Eur Spine J. August 2017, Volume 26, Issue 8, pp 2138-2145.	Original Article

121	Harauchi S, Osawa T, Kubono N,	薬剤部	Transfer of vaginal chloramphenicol to circulating blood in pregnant women and its relationship with their maternal background and neonatal health.	J Infect Chemother 23: 446-451, 2017	Original Article
122	Mino Y, Naito T, Kawakami J	薬剤部	Mycophenolic acid exposure and complement fraction C3 influence inosine 5'-monophosphate dehydrogenase activity in systemic lupus erythematosus.	Ann Clin Biochem 54: 490-494, 2017	Original Article
123	Shibata K, Naito T, Kawakami J	薬剤部	Simple and rapid LC-MS/MS method for the absolute determination of cetuximab in human serum using an immobilized trypsin.	J Pharm Biomed Anal 146: 266-272, 2017	Original Article
124	Taguchi R, Naito T, Sato H,	薬剤部	Validated LC-MS/MS method for the simultaneous determination of amlodipine and its major metabolites in human plasma applied of hypertensive patients.	Ther Drug Monit 39: 625-631, 2017	Original Article
125	Suzuki Y, Naito T, Kawakami J	薬剤部	Validated LC-MS/MS method for simultaneous determination of aripiprazole and its three metabolites in human plasma.	Chromatographia 80: 1805-1812, 2017	Original Article
126	Abe K, Suzuki H, Maekawa M,	薬剤部	Matrix effect-corrected liquid chromatography/tandem mass-spectrometric method for determining acylcarnitines in human urine.	Clin Chim Acta 468: 187-194, 2017	Original Article
127	Tashiro M, Naito T, Kawakami J:	薬剤部	Influence of cytochrome P450 genotype on the plasma disposition of prochlorperazine metabolites and their relationships with clinical responses in cancer patients.	Ann Clin Biochem (in press, 2017)	Original Article
128	Nishimura T, Takei N, Tsuchiya KJ	子どものこころの発達研究センター	Neurodevelopmental trajectory during infancy and diagnosis of autism spectrum disorder as an outcome at 32 months of age.	Epidemiology. in press	Original Article

129	Yamada Y, Denda T, Gamoh M,	臨床腫瘍学	S-1 and irinotecan plus bevacizumab versus mFOLFOX6 or CapeOX plus bevacizumab as first-line treatment in patients with metastatic colorectal cancer (TRICOLORE): a randomized, open-label, phase III, noninferiority trial.	Ann Oncol, 29, 624-631 2018	Original Article
130	Hiraide T, Sakaguchi T, Kikuchi H	臨床腫瘍学	The Role of Positron-Emission Tomography/Computed Tomography in Patients with Colorectal Liver Metastases who are Candidates for Liver Resection: Is it Useful?	J Surg 5: 7, 2017.	Original Article
131	Karayama M, Inui N, Mori K,	臨床腫瘍学	Respiratory impedance is correlated with airway narrowing in asthma using three-dimensional computed tomography.	Clin Exp Allergy 48(3):278-287, 2018	Original Article
132	Chizuko Yaguchi, Hiroaki Itoh, Kenji J.	女性医師支援センター	Placental pathology predicts infantile physical development during first 18 months in Japanese population: Hamamatsu birth cohort for mothers and children (HBC Study),	PLOS one, 2018, https://doi.org/10.1371/journal.pone.0194988	Original Article
133	Ohashi N, Isobe S, Ishigaki S,	卒後教育センター	Intrarenal renin-angiotensin system activity is augmented after initiation of dialysis.	Hypertens Res. 2017 Apr;40(4):364-370.	Original Article
134	Hozumi H*	救急部	Clinical Utility of YKL-40 in Polymyositis/dermatomyositis-associated Interstitial Lung Disease.	J Rheumatol 44: 1394-1401, 2017.	Original Article

計134件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	鮫島哲朗、野崎孝雄、平松久弥	脳神経外科	SYNAPSE VINSENTを用いた簡易型シミュレーションソフト「開頭シミュレータ・テンソル解析」の評価 7	CI研究38:11-16, 2017	Original Article
2	坂野友啓, 長谷川智彦, 大和 雄	整形外科	体位によるアライメント変化が脊柱変形術後成績に及ぼす影響.	J Spine Res 8(4):984-988.2017.	Original Article
3	花田 充, 星野裕信, 松山幸弘	整形外科	Denosumab投与後における血清カルシウム値とリン値の経時的変化の併用薬による違い.	中部整災誌 60(1):211-212.2017.	Original Article
4	星野裕信, 錦野匠一, 松山幸弘	整形外科	FAIの骨形態異常と関節鏡所見の検討.	中部整災誌 60(1):195-196.2017.	Original Article
5	星野裕信, 錦野匠一, 松山幸弘	整形外科	Alpine short distal taper stemの使用経験.	日本人工関節学会誌 47:149-150.2017.	Original Article
6	三原唯暉, 長谷川智彦, 大和 雄,	整形外科	腰椎後方すべりはどのような脊柱アライメントの代償機構なのか?(TOEI 2012 study).	J Spine Res 8(9):1488-1492.2017.	Original Article
7	武藤真隆	整形外科	単独で第1楔状骨骨折の1例.	中部整災誌 60(1):1-3.2017.	Original Article
8	中村光志, 星野裕信, 錦野匠一	整形外科	仰臥位前外側アプローチTHAにおける骨盤傾斜・回旋変化 術前計画と手術肢位の比較.	Hip Joint 43(1):72-75.2017	Original Article
9	野本一希,	整形外科	足底腱膜炎に対する体外衝撃波治療の成績 運動習慣の有無での比較検討.	JOSKAS 42(2):392-393.2017.	Original Article
10	紫藤洋二, 松山幸弘	整形外科	単純切除後に病理誤診断により、根治的治療困難となった頸部発生 desmoplastic melanoma の1例.	中部整災誌 60(3):591-592.2017.	Original Article
11	鈴木基裕, 花田 充	整形外科	関節リウマチの外反母趾変形矯正における底側ロッキングプレート使用の有用性の検討.	日本足の外科学会雑誌 38(1):63-65.2017.	Original Article
12	後迫宏紀,	整形外科	経験と考察 骨粗鬆症患者に対するデノスマブ投与1年の骨代謝マーカーと骨密度変化.	整形外科 68(11):1171-1173.2017.	Original Article
13	後迫宏紀, 坂野友啓, 松山幸弘	整形外科	経験と考察 化膿性脊椎炎の治療成績 3施設間の比較.	整形外科 69(1):9-11, 2018.2017.	Original Article

14	大和 雄, 松山幸弘	整形外科	成人脊柱変形の目指すポイント PI-LL \leq 10°, PT $<$ 20° はすべての年齢層に当てはまるのか 成人脊柱変形患者に対する矯正固定術では年齢で矯正目標を変えるべきか?.	臨床整形外科 52(5):433-438.2017.	Original Article
15	倉田健太郎、古森美和、堀田喜裕	眼科	猫ひっかき病が原因となった視神経網膜炎の2例.	臨眼 71(9): 1345-1351, 2017	Original Article
16	倉田健太郎、細野克博、堀田喜裕	眼科	CYP4V2遺伝子変異を認めたクリスタリン網膜炎の2例.	臨眼 72(3): 351-358, 2018	Original Article
17	倉田健太郎、堀田喜裕	眼科	網膜色素変性症患者における自動車運転実態調査.	臨眼 72(3): 413-417, 2018	Original Article
18	古森美和、彦谷明子、堀田喜裕	眼科	前眼部OCTを用いた水平直筋付着部測定 -小児と成人での比較-.	視覚の科学 38(3): 48-52, 2017	Original Article
19	中西啓, 遠藤志織, 大和谷崇	耳鼻咽喉科	EYA1遺伝子変異によるBranchio-Oto症候群例.	耳鼻臨床 110: 629-635, 2017.	Original Article
20	中西啓, 遠藤志織, 大和谷崇	耳鼻咽喉科	当院におけるアッシャー症候群タイプ1の臨床所見の検討.	Audiol Jpn 60: 484 -491, 2017.	Original Article
21	望月 大極, 三澤 清	耳鼻咽喉科	【上咽頭疾患とその周辺】上咽頭腫瘍 上咽頭の良性腫瘍,	JOHNS, 33巻, 1567-1570, 2017.	Original Article
22	水上高秀、深水秀一	形成外科	おとがい下皮弁挙上術.	形成外科 60:S153-159, 2017.	Original Article

計22件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 ア 倫理委員会の役割・責務等 イ 倫理委員会の業務 ウ 倫理委員会の運営 エ 倫理委員会における審査 オ 倫理委員会事務局の業務	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容 ア 利益相反マネジメントの目的・対象・対象者 イ 利益相反マネジメント委員会の設置・審議事項・組織 ウ 利益相反マネジメントのための調査方法 エ 審議、勧告、決定等の手続き オ 臨床研究に関する調査等 カ 研修・啓発活動	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年9回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年12回
・ 研修の主な内容 ア 臨床研究の倫理と本学の臨床研究サポート体制	

- | | |
|---|------------------------------|
| イ | 倫理指針の改正と臨床研究法について |
| ウ | 個人情報保護法等の改正に伴う研究倫理指針の改正について |
| エ | 臨床研究法の施行について～臨床研究法の概要と本学の対応～ |
| オ | 治験責任医師、分担医師に関わるGCPの基本事項 |

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

小児科プログラム、皮膚科プログラム、精神科プログラム、放射線科プログラム、病理プログラム、消化器病プログラム、肝胆膵疾患プログラム、循環器プログラム、呼吸器プログラム、血液プログラム、内分泌代謝科プログラム、腎臓・透析プログラム、神経内科プログラム、リウマチ(内科)プログラム、家庭医療プログラム、整形外科プログラム、産婦人科プログラム、眼科プログラム、耳鼻咽喉科・頭頸部外科プログラム、泌尿器科プログラム、脳神経外科プログラム、麻酔科プログラム、救急科プログラム、形成外科プログラム、リハビリテーション科プログラム、消化器外科プログラム、胸部外科領域(心臓血管外科、呼吸器外科)プログラム、一般外科(内視鏡外科)、乳腺外科プログラム、口腔外科専門医取得プログラム

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	59 人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
宮嶋 裕明	第一内科	教授	37年	
須田 隆文	第二内科	教授	32年	
前川 裕一郎	第三内科	教授	23年	
緒方 勤	小児科	教授	37年	
山末 英典	精神神経科	教授	20年	
椎谷 紀彦	第一外科	教授	34年	
竹内 裕也	第二外科	教授	26年	
難波 宏樹	脳神経外科	教授	37年	
松山 幸弘	整形外科	教授	30年	
戸倉 新樹	皮膚科	教授	35年	
三宅 秀明	泌尿器科	教授	25年	
堀田 喜裕	眼科	教授	35年	
峯田 周幸	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	38年	
金山 尚裕	産婦人科	教授	38年	事務取扱
阪原 晴海	放射線診断科	教授	40年	
中島 芳樹	麻酔蘇生科	教授	31年	
加藤 文度	歯科口腔外科	教授	34年	
馬場 聡	病理部・病理診断科	病院教授	33年	
吉野 篤人	救急部・救急科	教授	32年	
深水 秀一	形成外科	病院教授	38年	
山内 克哉	リハビリテーション科	教授	24年	

診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>①がん看護スキル ②看護倫理 ③看護研究 ④認知症ケア ⑤術後ケア ⑥皮膚排泄ケア ⑦感染管理</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>①5/8 ②6/2 ③6/16 ④7/18 ⑤8/30 ⑥10/5 ⑦11/21</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>①72名 ②139名 ③33名 ④61名 ⑤85名 ⑥80名 ⑦88名</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>①退院支援研修 ②災害看護シミュレーション</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>①6/12、6/23、7/3、7/4、7/5、11/6 ②7/5</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>①18名 ②25名</p>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 金山 尚裕
管理担当者氏名	総務課長：葛山雅弘／人事課長：伊藤一二三／医事課長：北村 強 薬剤部長：川上純一／放射線部長：阪原晴海／手術部長・医療機器管理部長：中島芳樹 看護部長：鈴木美恵子／診療情報管理部長：堀田喜裕

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課	全科電子カルテを導入。カルテは、一患者1 I D とし、入院及び外来ともに診療情報室において保存管理している。診療録の院外持ち出しは禁止している。
		各科診療日誌	医事課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医事課	
		看護記録	医事課	
		検査所見記録	医事課	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課・医事課	
		高度の医療の研修の実績	医事課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課・医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課・医療安全管理室		
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課・医療安全管理室		
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課・医療安全管理室		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課・感染対策室
	第二条	院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課・感染対策室
	第三条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課・感染対策室
	第四条	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課・感染対策室
	第五項	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	第六号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第八号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第九号	医療機器安全管理責任者の配置状況	医療機器管理部
	第十号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器管理部
	第十一号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器管理部
第十二号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課・医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課・感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課・診療情報管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課・診療情報管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医事課・医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課・医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医事課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課・医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課・医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課・医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課・医療安全管理室
		職員研修の実施状況	医事課・医療安全管理室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課・医療安全管理室
管理者が有する権限に関する状況	人事課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	事務局次長（総務・教育担当）柿澤 稔	
閲覧担当者氏名	総務課長 葛山雅弘	
閲覧の求めに応じる場所	総務課情報公開室	
閲覧の手続の概要		
独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成13年法律第140号）に基づき、国籍、住所、年齢、個人及び法人を問わず、浜松医科大学の保有する法人文書の開示を請求することができる。請求を受理してから、1か月以内（請求の内容によってはそれ以上の日数を要する場合もある。）に開示・不開示等を決定し、請求者に通知する。その後、請求者からの開示の実施申出を受け開示を実施する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 安全管理に関する基本的な考え方 2 医療に係る安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項 3 医療に係る安全教育のための職員研修に関する基本方針 4 事故報告の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6 職員と患者との間の情報共有に関する基本方針 7 患者からの相談への対応に関する基本方針 8 その他医療安全の推進のための必要な基本方針 	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理体制の確保に関すること 医療事故等の把握、分析、対処改善、評価及び見直しに関すること 医療に係る安全管理のための職員の研修に関すること その他の医療の安全管理に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年19回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> 講演会4回（全職員対象） 医療安全管理に係る新任者研修 10回（中途採用職員対象） 研修医ガイダンス1回（医療事故・安全対策について） 新採用者オリエンテーション 3回（事故防止に関すること等） 看護助手研修 1回 	
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 収集した情報をもとに、A) 外部参加型事例調査、B) 院内事例調査、C) M&Mカンファレンス、D) 部署内検証レビュー、E) 医療安全管理室のカンファレンス、F) 医師並びに看護師GRMが検証、G) 検証不要に分類し必要なスタッフで事例検証し、問題点を分析し、改善策を立案し、現場スタッフにフィードバックしている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策に関する管理組織機構 3. 職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. アウトブレイクあるいは異常発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等への情報提供と説明に関する基本方針 7. 感染対策に関する地域医療機関との連携 8. その他院内感染対策推進のための基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： 1. 審議事項 2. 病棟別検出菌・感染症情報レポートおよびMRSAサーベイランス報告 3. ICTラウンド・コンサルテーション報告 4. 診療科別抗菌薬使用状況の報告 5. 院内手指消毒用アルコール消費量集計 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 24回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： ・ 院内感染対策講習会：3回（AMRアクションプラン・災害時における感染対策・SSI予防等） 【職種・部署別研修】 ・ 新採用看護師研修3回 ・ 研修医2回 ・ 新採用薬剤師・各1回 ・ 看護助手1回 ・ 新採用・中途採用職員（看護職員以外）研修：DVD研修 ・ 中途採用看護師5回 ・ 中途採用看護助手5回 ・ 看護師1回（ラダー別研修） ・ 部署別勉強会2回 【委託業者】 ・ 栄養部 ・ 清掃業者 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ ICTラウンド（週1回）による感染対策の実施状況および環境整備の確認 ・ 耐性菌発生状況の把握とアウトブレイク介入基準に基づく介入、および血液培養陽性患者の把握と評価 ・ 広域抗菌薬および抗MRSA薬使用患者の抗菌薬使用モニタリングと抗菌薬適正使用の評価 ・ 感染対策に関する介入を要した事例の部署別ミーティングの実施 ・ 院内Web内の感染対策HP、ICT NEWSなどによる感染情報提供 ・ 感染対策ポケットマニュアルの配布 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ・ 医薬品の安全使用のための注意点（アレルギーカード、輸液フィルターおよび院内事例の紹介） ・ 静脈注射の知識および実施に当たり注意すべきポイント ・ 処方オーダーの入力方法 ・ 医薬品の取扱で注意すべきこと 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成（有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <p>実施状況については年1回チェックシートを用いて確認している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>薬剤師による処方監査・処方確認および入院患者への処方確認時に使用目的を確認し、必要に応じて疑義照会および処方確認を実施している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 91回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 7種の機器（本院は診療用粒子線照射装置を持たず）の有効性、安全性、使用法、保守点検の方法、不具合発生時の報告手順、法令の定めるコンプライアンスの遵守事項の確認を中心に行った。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （有 無） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 機器に添付される使用・保守説明書に記載された点検項目に従い点検を行った。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有 無） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 該当品目無しであったが、ある場合は医療安全管理委員会と協議の上、使用規則に遵守した方法で実施する予定。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 呼吸サポートチーム（RST）の中央診療施設、病棟の呼吸器全般（条件、作動状況のコンサルタントなど）巡回監視を実施した。 2) 病棟で使用する患者モニタ、呼吸器の作動状況の確認のため、1回/日の巡回監視を実施した。 3) 当直担当者を配置し、医療機器全般の緊急対応を行った。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格（医師・歯科医師） 医師 ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 →統括している。 	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 情報の整理は薬剤部医薬品情報管理室にて実施している。 情報の周知は添付文書改訂の通知を定期的実施している。また医薬品安全性情報等の通知および当該医師への伝達、DI ニュースの発行などを必要に応じて実施している。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認薬等による治療が必要になった場合、治療を実施する医師は薬剤部医薬品安全管理室あるいは製剤室に照会する。 病棟などで薬剤師が確認した際は医師に疑義照会などを実施している。 院内製剤は診療倫理委員会及び薬剤管理委員会にて承認を受ける。 ・ 担当者の指名の有無 (有・無) ・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 ：一定サンプル（H30 外保連手術難易度Eに該当する症例）について記載項目を調査。 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>全例（退院時要約、手術記録、入院診療計画書）</p> <p>サンプル調査（H30 日々の記録記載、入院診療計画書項目）</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（2）名、専任（4）名、兼任（11）名</p> <p>うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（5）名</p> <p>うち薬剤師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（2）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>医療事故及びインシデントの収集、調査、分析に関すること。</p> <p>医療事故防止対策の立案及び周知に関すること。</p> <p>リスクマネージャーとの連絡調整に関すること。</p> <p>医療事故防止に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること。</p> <p>医療事故防止に係る教育・研修・啓発の立案に関すること。</p> <p>医療事故防止対策マニュアルの作成に関すること。</p> <p>医療事故等に係る診療録等記載の確認、指導に関すること。</p> <p>医療事故等に係る対応状況の確認、指導に関すること。</p> <p>病院医療安全管理委員会の庶務に関すること。</p> <p>医療安全に資する診療の状況の把握及び職員の医療安全の認識の状況の確認に関すること。</p> <p>※モニタリングの具体例</p> <p>・手術時の静脈血栓予防策の実施率</p> <p>・中心静脈挿入時のチェックリスト</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・活動の主な内容：</p>	

病院で行う新規医療技術の導入の申請に対し倫理的・科学的妥当性について審査、確認及び事後検証

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (2件)、及び許可件数 (2件)
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)

・ 活動の主な内容 :

当該未承認新規医薬品等と既存の医薬品とを比較した場合の優位性 (予測される有害事象の重篤性、頻度等の安全性等の観点を含む。)

未承認新規医薬品等の使用条件 (使用する医師又は歯科医師の制限等)

当該未承認新規医薬品等の使用に起因するものと疑われる有害事象の把握の方法 (血液検査の実施、調査票の配布等)

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 284 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 63 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

各事例に応じ医療管理室、カンファレンス、他職種カンファレンス (M&Mカンファ)、部署内検証の結果をもとに、事例の検証を行い再発防止策の立案を行っている

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（**有**）（病院名：宮崎大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（**有**）（病院名：信州大学医学部附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

【主な技術的助言】

依頼医が画像診断報告書を確認しやすいシステム、及び報告書の確認漏れをチェック出来るシステムの構築

【対応】

放射線レポートシステムを導入し、定期的（1月に2度）に未読レポートの状況を各診療科へ連絡する体制を整備した。

【改善状況】

放射線レポートシステムの導入と未読レポートに対する各診療科への連絡体制を構築したことにより、未読レポートの把握が可能となるとともに、レポート依頼医への意識変革につながった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

医療安全患者相談窓口の設置 → 医療安全管理室

責任者：医療安全管理室長

ゼネラルリスクマネージャー（GRM）及び

医事課医療安全推進係長

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

全職員を対象とした講習会：4回

医療安全管理及び感染対策にかかる新任者研修：10回

研修医ガイダンス：1回

新採用者オリエンテーション：3回

看護助手研修：1回

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況

医療安全管理責任者、医薬品安全責任者及び医療機器安全管理責任者については、平成 29 年度に公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院管理者研修を受講済みである。

管理者についても本年度（9/17～9/18）の受講予定である。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 現在検討中。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・ 公表の方法 現在検討中
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・ 公表の方法 <p>※管理者の選考を行う委員会については平成31年9月1日設置予定</p>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院運営における中期目標、中期計画に関する事項（進捗状況含む）。 病院予算、業務実績報告に関する事項。 その他病院運営に関する事項。 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 診療科長会議で報告を行っている。院内ホームページに議事内容を掲載している。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（有・(無)） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（有・(無)） 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
金山 尚裕	○	医師	病院長
須田 隆文		医師	副病院長（教育・研修担当）
緒方 勤		医師	副病院長（運営・管理担当）
中島 芳樹		医師	副病院長（リスクマネジメント担当）
鈴木 美恵子		看護師	副病院長（患者サービス担当） ・看護部長
宮嶋 裕明		医師	医師
竹内 裕也		医師	第一内科主任診療科長
難波 宏樹		医師	脳神経外科長
戸倉 新樹		医師	皮膚科長
堀田 喜裕		医師	眼科長
中村 和正		医師	放射線治療科長
前川 真人		医師	検査部長
木村 通男		医師	医療情報部長
小林 利彦		医師	医療福祉支援センター長
安田 浩明		事務	事務局次長（病院担当）

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・**無**）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
病院長は、病院の業務を統括する。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長（教育・研修担当）
副病院長（運営・管理担当）
副病院長（リスクマネジメント担当）
副病院長（患者サービス担当）

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
毎年1回開催される以下の会議・勉強会・研修会等に職員を参加させ、病院のマネジメントを担う人員の育成に努めている。
 - ・ 近畿・中部地区病院経営企画担当事務職員勉強会
 - ・ 近畿・中部地区附属病院経営担当課長等会議
 - ・ 国立大学附属病院係長クラス勉強会
 - ・ 国立大学附属病院契約実務担当者ワークショップ
 - ・ 国立大学附属病院若手職員勉強会

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2回</p> <p>・ 活動の主な内容： 本院の安全管理体制について外の委員も含めた委員で監査・評価を実施する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (有 (無))</p> <p>・ 公表の方法：</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小島 崇宏	大阪 A & M 法律事務所	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 (無)	1
桑原 允嗣	なし		医療を受ける者	有 (無)	2
大磯 義一郎	国立大学法人 浜松医科大学		法律に関する識見を有する者	(有)・無	1
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
浜松医科大学組織規則第19条により監査室を置き、浜松医科大学監査室規程及び浜松医科大学内部監査規程により、業務活動の合法性、合理性及び効率性について監査を行う。
- ・ 専門部署の設置の有無 (有 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 無)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 国立大学法人法に基づき、大学法人の経営に関する重要事項を審議する機関として経営協議会を置いている。当協議会は、外部有識者の諮問会議の性質を有するもので、大学法人経営の大きなウエイトを占める附属病院の管理運営に関しても多くの意見・助言等を受けている。 ・ 会議体の実施状況（ 年4回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ）（ 年4回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 <input checked="" type="radio"/> 無 ） ・ 公表の方法 規程は公表していないが、運営の透明性を担保するため、協議会の開催状況、審議内容、外部委員の意見等を大学ホームページで公開している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人浜松医科大学経営協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
今野 弘之	学長	○	有
山本 清二	理事(教育・産学連携担当)		有
渡邊 裕司	理事(企画・評価担当)		有
田中 宏和	理事(財務担当)		有
晝馬 明	理事(経営担当)		有
金山 尚裕	副学長(病院担当)		有
伊藤 修二	公益財団法人浜松市文化振興財団代表理事		無
猿田 享男	公益財団法人 医療研修推進財団顧問		無
紀平 幸一	一般社団法人 静岡県医師会長		無
布村 幸彦	公益財団法人 東京リリック・パ ラリニック競技大会組織委員会副事務総長		無
正木 治恵	千葉大学大学院看護学研究科教授		無
御室 健一郎	浜松信用金庫理事長		無
門田 守人	地方独立行政法人 堺市立病院 機構理事長		無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年〇件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 医療安全ニュース等において周知

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本医療機能評価機構 平成26年3月4日 (火)、5日 (水) 検査部：公益財団法人日本適合性認定協会 平成29年9月6日 (水)、7日 (火)	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 (1) 広報誌による情報発信 ① 病院案内 (年1回発行) ② 「はんだ山の風」 (年4回発行) ③ 医療福祉支援センター広報誌「かけはし」 (年4回発行) (2) 市民公開講座等による情報発信 ① 浜松医科大学と静岡新聞社・静岡放送が主催する「浜松医科大学健康増進プロジェクトのぼさう健康寿命」 (H30.5~H30.11) web動画配信、ラジオ放送、公開講座 ② 浜松医科大学主催「公開講座」 (H30.12開催予定) ③ 浜松医科大学主催 静岡がんフォーラムを開催 (H30.9.6) ④ 静岡肝疾患診療連携拠点病院主催で「市民公開講座」 (年3回) を実施している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 (1) 緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、呼吸ケアサポートチーム、精神科リエゾンチーム、NSTチームによるチーム医療の提供している。 (2) 感染対策室、医療安全管理室、医療福祉支援センター (がん相談、肝疾患相談、難病相談、退院支援) 等多職種が参加した診療・ケアの実施している。	

(様式第8)

浜医大 医 第 4 号
平成30年10月 4日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人浜松医科大学
学長 今野 弘之 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（2）名、専任（4）名、兼任（11）名
うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（5）名
うち薬剤師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（ ）名
うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（2）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

看護師2名を専従職員として配置済み。
5割以上従事する者として、医師2名、薬剤師2名を配置済み。
今後の医師、薬剤師の専従職員の配置については検討中。